

# Pan-Report™

発行; PanRolling Inc.  
年間購読料 63,000 円  
無断転用禁止

#1001, Duo, 7-21-3, Nishishinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan, 160-0023 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-21-3-1001 fax03-5386-7393

## 《ハイテク、バイオに特化したヘッジファンド》 1 / 1

ヘッジファンド

足立 眞一

### ネットバブル崩壊を切り抜け、再出動を覗く...ナスダックの反騰に賭ける法

今回の世界的な株高のリード役はハイテク株だ。その中にはウォール街で、過去1年で10倍にもなった銘柄が散見されるし、日本でもソフトバンクが・・・倍になった。ほかのソフト開発関連株についても、ことし3月の安値から軒並み2倍以上に値上がりしている。相場が本格反騰のトレンドに乗ったのなら、ハイテクにまず注目し、ウエイトを増やさなければならない。問題は、はたしてハイテクは底入れたのか？あるいは単なる売り方のショートカバー（カラ売りの買戻し）なのか？長期のベアーマーケットの中における反騰ではないか？相場の世界には「これが絶対に正しい」という予測はありえないだけに、チャンスに乗り遅れまいと考えている投資家にとっては、大きな難題である。「せっかくソフトバンクで10倍儲けたのに、ITバブルの反動で全部はたいてしまった」という人が多いだけに、この問題の解決はいまの私にとっては、なによりも先に解答を引き出さなければならない。時間の余裕はない。

そこで信頼できるファンドマネジャーの選択から入る。個々の銘柄選びはその後である。ギャレオン・テクノロジー・オフショア (Galleon Technology Offshore) に注目する。ハイテク専門のヘッジファンドで、この世界では知る人ぞ知る。2000年のネットバブル崩壊では、ソロスのカンタム・ファンドも大失敗をして、30年余の歴史に幕を閉じる結果になったのに(ソロスが全面的に信頼していたスタンレー・ドランケンミラーがハイテク、ネット株の売り場を見誤った) ギャレオン・テクノロジーはネットバブル崩壊を見事に切り抜け、今年になってもナスダック上昇の波にのっている。まず過去のパフォーマンスを見てみよう。

#### ギャレオン・テクノロジー・オフショアのパフォーマンス

	Ga Tec	Nasq		Ga Tec	Nasq
1996年	+30.4%	+22.7%	2000年	+12.5%	-39.3%
1997年	+0.7%	+21.6%	2001年	-9.3%	-21.1%
1998年	+30.3%	+39.6%	2002年	-19.9%	-31.5%
1999年	+96.5%	+85.6%	2003年	+20.6%	+21.5%

パフォーマンスの推移を追うだけで、このファンドの良し悪しを論じる必要はまったくあるまい。ハイテクの相場を代表するナスダック指数(ハイテク、バイオで3分の2を占める)に対して、長期的には完全に打ち勝っている。ナスダックが上昇する時は、それに応じて上がっているし、逆に下がる時は全体の下落より小さい。これが「絶対リターンを追及するのがヘッジファンドの本領」という、ジョージ・ソロスの定義に当てあまる運用だと思う。運用者のラジャ・ラジャトナムは、名前からしてもお分かりのようにインド人のファンドマネジャーである。名門ウオートン・スクールでMBAを取得した後、ハイテク専門の投資銀行のニードハム&カンパニーの社長として活躍、1996年に独立してヘッジファンドを設立した。スタートに当たって、前職のボスのニードハムも資金を委ねた。彼の才能をだれよりもよく知っている。ラジャトナムは親友のG・アルジャバリンガム博士をスカウトした。カリフォルニア大学でハイテクを専攻した後、IBMの研究所で働いていた。そのほか17人のアナリストを抱え、彼らは1ヵ月に250社の企業訪問をする。それにラジャトナムにはニードハム時代に築いたハイテク企業のトップとの人脈がある。電話1本で最先端の経営者と接触できる。これは強い。

手元にあるのは4月上旬の第1四半期のレポートだが「原油価格の下落、イラク戦争の決着は相場にはプラス。ただこれまで損をした投資家の信頼を回復するには多少時間が必要だ。カギは投資家が今年前半の業績を過去のものにとらえ、前向きになるかどうか。その時点ではわれわれも積極的になる」としている。

私は2ヵ月前からこのファンドに投資を始めた。私の個人的な見通しでは6-7割の確率で、ハイテク・リードの世界的な株高が始まったとみるからだ。乗り遅れないためにラジャトナムに賭けた。ヘッジファンドの利用の仕方の一つである。読者の皆さんもこれから世界的にハイテクやバイオが主流になると見る向きは、この種のヘッジファンドへの投資に注目されたらどうだろうか。

ハイテクというポラティリティーの大きい世界に、ヘッジファンドという投機的と見られるている手段で運用する。通念では理解できない話ではあるが.....それが新時代の資産運用のあり方の一つだ。

監修 / パンローリング  
<http://www.panrolling.com/>

TEL03-5386-7391 後藤  
E-mail; [goto@panrolling.com](mailto:goto@panrolling.com)